

十和田の火山活動解説資料（令和6年6月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

今期間、火山性微動が観測されましたが、その他の観測データに特段の変化はありません。火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1）

銀山監視カメラによる観測では、噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図2、図3）

観測開始以降確認している深さ5km前後で発生している地震は、今期間は少ない状態で経過しました。また、より浅い場所を震源とする火山性地震は観測されませんでした。

14日に火山性微動が1回発生しました。火山性微動が観測されたのは2014年1月27日の観測開始以降初めてです。火山性微動の発生前後で、その他の観測データに特段の変化は認められませんでした。

低周波地震は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図4、図6）

十和田周辺の一部のGNSS基線長では、2023年前半から大川岱観測点の西方向への変位によるとみられるわずかな変化が引き続き認められています。この変化には、2023年前半からの十和田湖2観測点の東方向への変位によるものとみられるごくわずかな変化も含まれていると考えられます。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

今回の火山活動解説資料（令和6年7月分）は令和6年8月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。



図1 十和田 中湖周辺の状況（6月27日）

・ 銀山監視カメラ（中湖の北西約6 km）の映像です。

噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

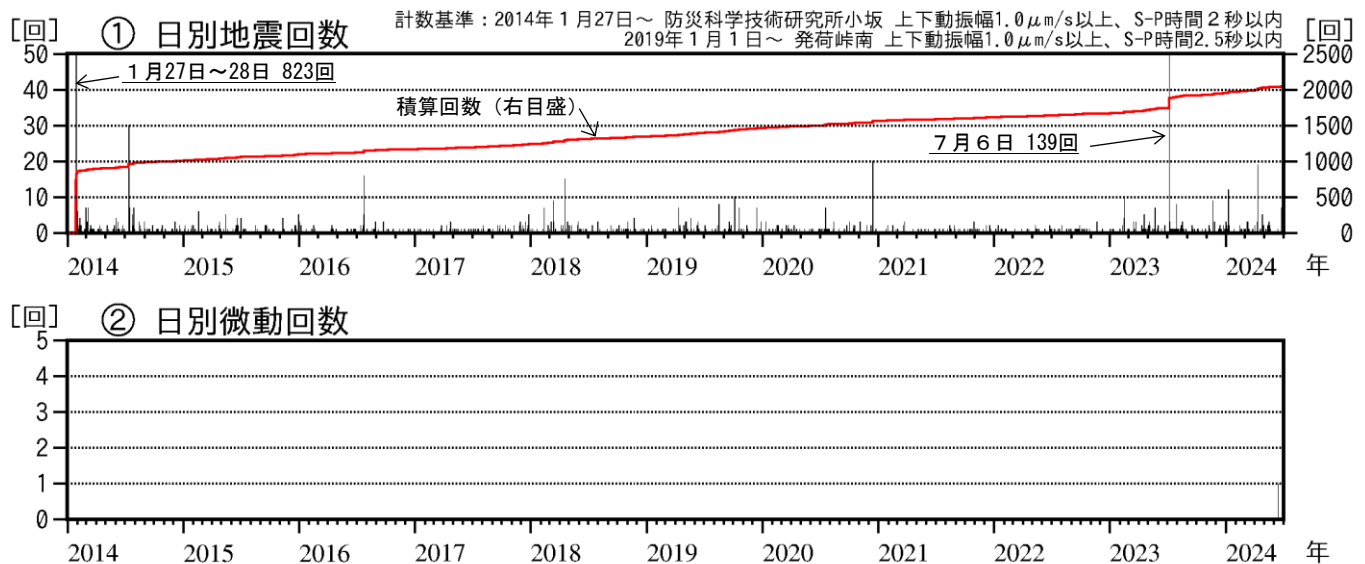


図2 十和田 活動経過図（2014年1月～2024年6月）

火山性地震は少ない状態で経過し、低周波地震は観測されませんでした。14日に観測開始（2014年1月27日）以降初めてとなる火山性微動が1回発生しました。

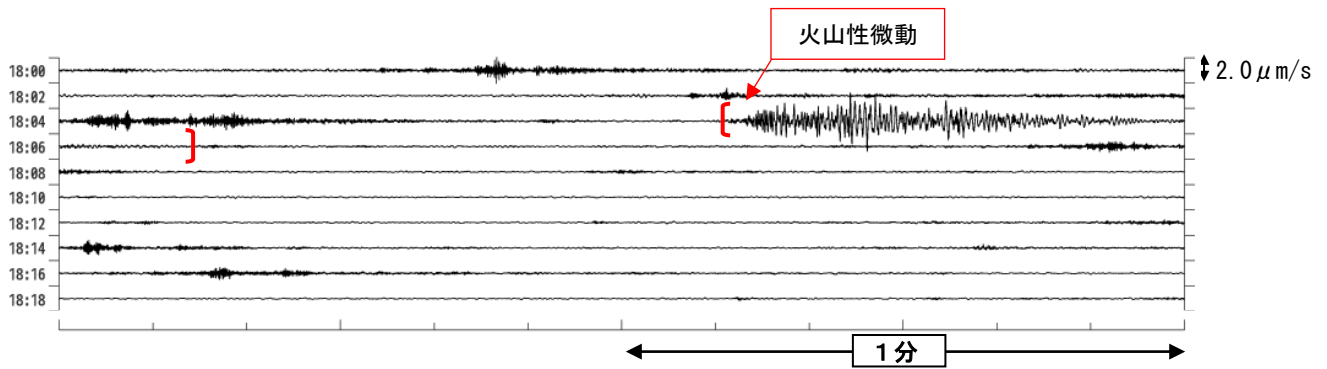


図3 十和田 発荷峠南観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況
（2024年6月14日18時00分～18時20分）

・〔 〕は火山性微動の発生時を示します。

14日に火山性微動が1回発生しました。継続時間は1分3秒、発荷峠南観測点（中湖の南西約5 km）の最大振幅は $2.0 \mu\text{m/s}$ でした。なお、火山性微動の発生前後で、その他の観測データに変化は認められませんでした。

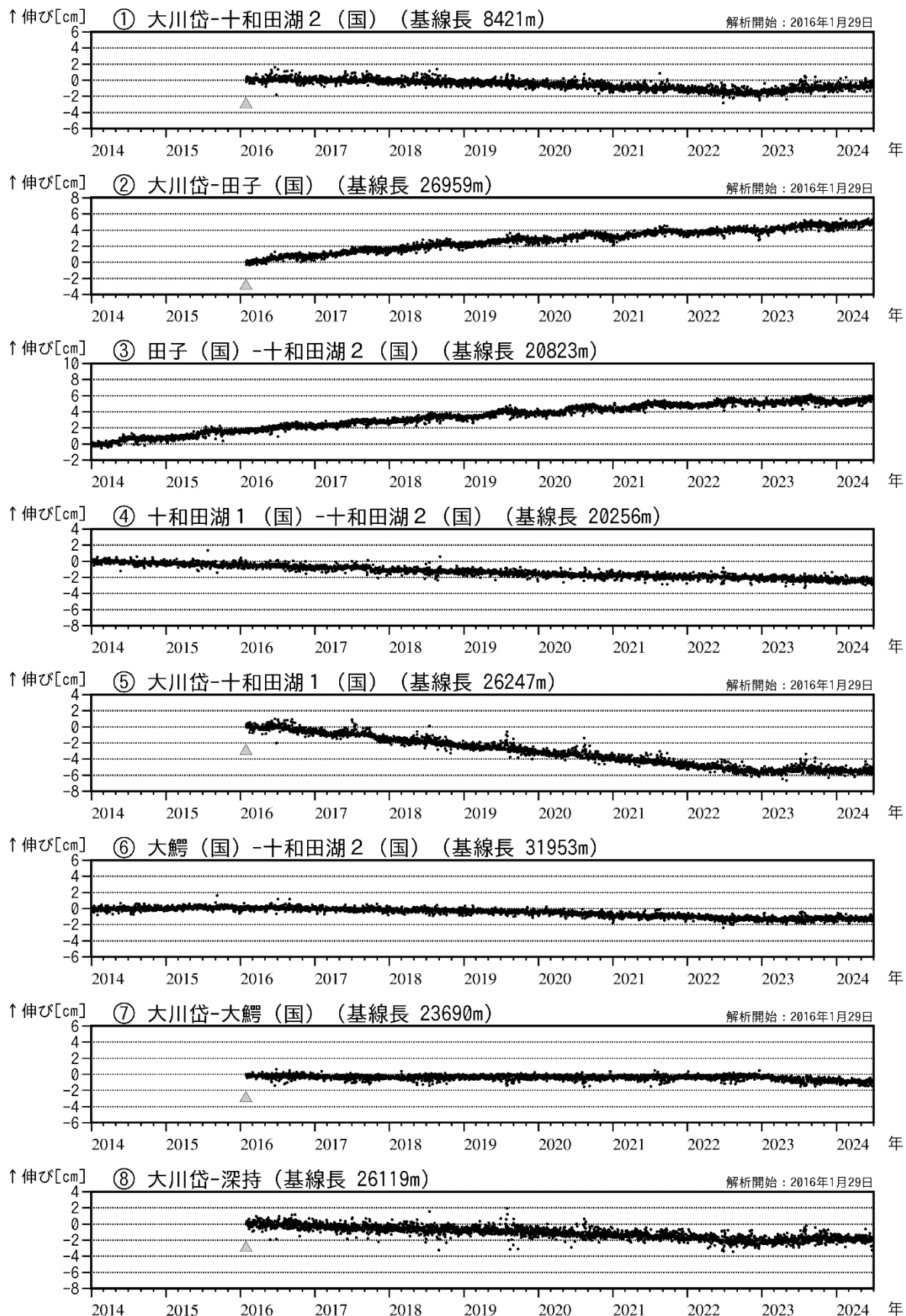


図4 十和田 GNSS 基線長変化図 (2014 年 1 月～2024 年 6 月)

- ・①～⑧は図6のGNSS基線①～⑧に対応しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲: 解析開始を示します。

十和田周辺の一部のGNSS基線長(①⑤⑧)では、2023年前半から大川岱観測点の西方向への変位によるとみられるわずかな変化が引き続き認められています。またGNSS基線長①の変化には、2023年前半からの十和田湖2観測点の東方向への変位によるとみられるごくわずかな変化も含まれていると考えられます。

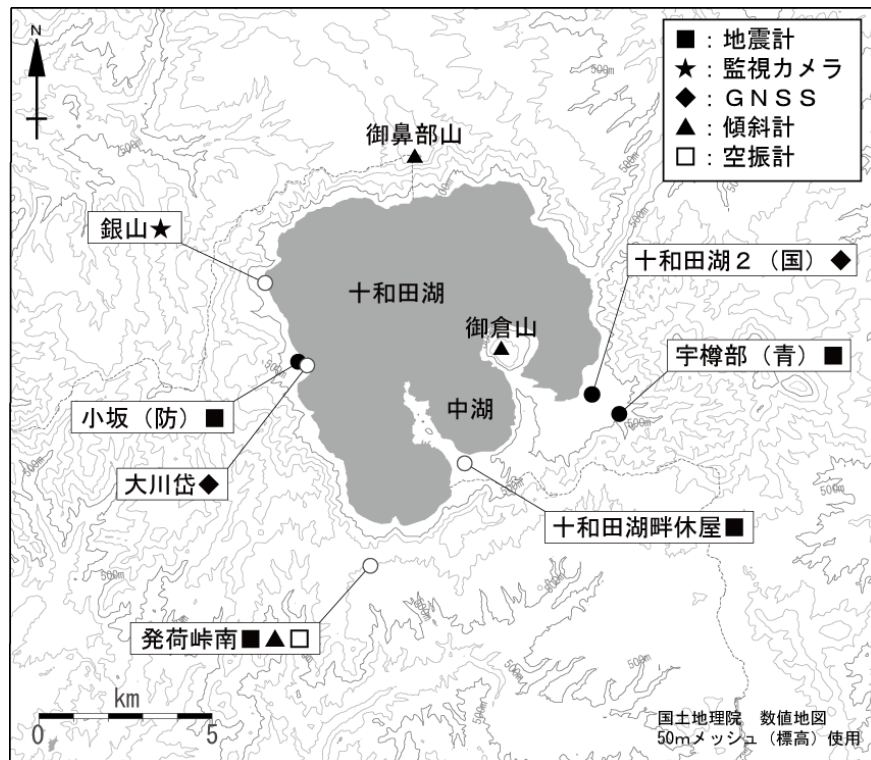


図5 十和田 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院 （防）：防災科学技術研究所 （青）：青森県

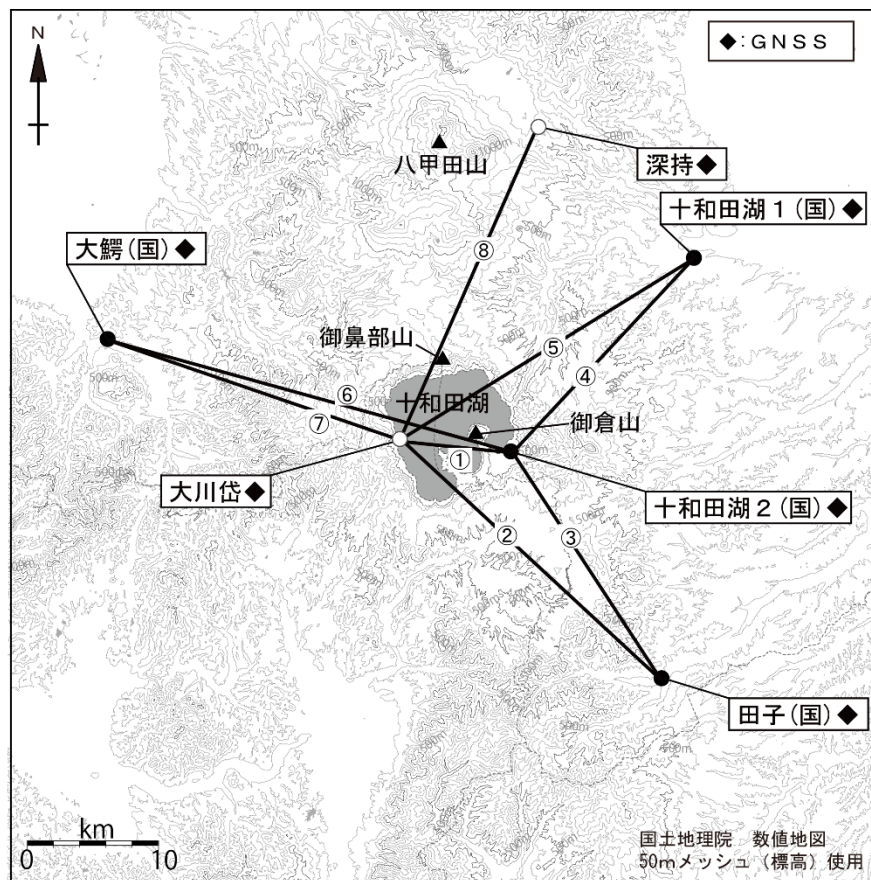


図6 十和田 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院